中学１年　国語科　教材別テスト⑪　模範解答・解説

「「不便」の価値を見つめ直す」（川上浩司）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語１』の「「不便」の価値を見つめ直す」のページを開いたまま**解答します。筆者は「**不便益**」（不便だからこそ得られる良さ）を研究する工学者で、この文章は**話題提示→具体例→主張**という型をもつ説明的文章です。**対比（便利／不便）**をとらえる力と、**筆者の主張を自分の言葉でまとめる力**を見ることをねらいとしています。大問四はすべて、本文を長く書き抜かずに答えられる形にしてあります。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問／読み10・書き10）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（同音異義語・部首名・慣用句・対義語・類義語・熟語の組み立て・四字熟語）	２点×７＝14点
	三	文法（文の種類＝単文・重文・複文／連文節＝主部・述部・修飾部／文節どうしの関係）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「「不便」の価値を見つめ直す」の読解（全12問）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① **単文・重文・複文**を、主語・述語の組の数と対等かどうかで見分けられるか。

② **連文節（主部・述部・修飾部）**と**文節どうしの関係（並立・補助など）**を区別できるか。

③「**不便益**」という筆者独自の言葉を、自分の言葉で言いかえられるか。

④ **便利さの良さ**と**便利さが失わせるもの**という対比を、本文にそって整理できるか。

⑤「不便ならなんでもよい」という**読み違い**をせず、筆者の主張を正確にまとめられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	かち	⑪	簡単
②	こうりつ	⑫	設計
③	はぶく	⑬	技術
④	おんけい	⑭	装置
⑤	かいてき	⑮	経験
⑥	わずらわしい	⑯	方法
⑦	うながす	⑰	観察
⑧	つちかう	⑱	短縮
⑨	きんいつ	⑲	頼る
⑩	おとろえる	⑳	豊かな

小計　20点

【注意したい字】

③⑥⑦⑧⑩は**送りがなまで**書けていないと×。③「省く」は「はぶく」。「省みる」（かえりみる）との読み分けに注意。⑥「煩わしい」は送りがなが三字（わしい）。⑦「促す」を「そくす」と読むのは×。⑧「培う」は「つちかう」。「ばいう」は誤り。⑩「衰える」は「おとろえる」。⑫「設計」の「設」は**ごんべん**。「言＋殳」で、「投」「役」のつくりと混同しないこと。⑭「装置」の「装」は下が「**衣**」。「荘」と書く誤りに注意。⑪「簡単」の「簡」は竹かんむりで、「間」と書かないこと。⑮「経験」の「経」は「いとへん」。⑯「方法」の「法」を「放」と書く誤りに注意。⑰「観察」の「観」は「見」が右側にくる形で、「歓」と混同しないこと。⑲「頼る」⑳「豊かな」は送りがなまで必要。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**ア**	「**追求**」＝どこまでも追い求めること。便利さ・利益・理想などを「求める」ときはこれ。イ「追究」＝学問などで真理を深く調べること。ウ「追及」＝責任や原因を厳しく問いつめること。エ「追給」はこの文脈では使わない。
(2)	**にんべん**	「便」の部首は「イ（人）」。左側につくので「にんべん」。「便」の右側「更」を部首と答えるのは×。
(3)	**ア**	「骨が折れる」＝たいへん苦労する・手間がかかる。実際に骨折する意味ではない。この教材の「手間」という話題と関係する慣用句。
(4)	**複雑**	単純 ⇔ 複雑。「簡単 ⇔ 複雑」もよく出る組み合わせ。「複」を「復」「腹」と書く誤りに注意。
(5)	**イ**	「利点」＝すぐれているところ＝「**長所**」。ア「欠点」・ウ「短所」は対義語。エ「要点」は「大事なところ」で意味がちがう。
(6)	**ア**	「不便」＝打ち消しの接頭語「不」＋「便」。同じ組み立ては「**無理**」。イ「高低」は反対の意味の組み合わせ、ウ「読書」は「書を読む」で下が目的、エ「道路」は似た意味の組み合わせ。
(7)	**試行錯誤**	「いろいろ試し（試行）、誤りを重ねながら（錯誤）正しいやり方に近づく」の意。「思考錯誤」「試行錯語」という誤りが非常に多い。「**試**」「**行**」「**錯**」「**誤**」**の四字**。不便なものが使う人にうながすものとして、本文の内容と結びつけて覚えたい語。

小計　14点

三　文の種類と文の組み立て　（2点×8＝16点）

番号	問題文	解答	解説（見分け方）
(1)	私は／自転車で／坂を／上った。	**単文**	主語「私は」・述語「上った」が**一組だけ**。これが**単文**。
(2)	兄は／走り、／妹は／歩いた。	**重文**	「兄は走り」と「妹は歩いた」という主述の組が**二つ、対等に並んで**いる。これが**重文**。前後を入れかえても文が成り立つのが目印。
(3)	私が／作った／料理を／父が／食べた。	**複文**	中心の主述は「父が―食べた」。「私が作った」は「料理」を修飾する**従属した**主述。対等ではないので**複文**。(2)との差は**「対等か、片方が他を修飾しているか」**。
(4)	赤い／屋根の／家が	**主部**	「家が」が主語で、「赤い」「屋根の」がそれを修飾している。**主語をふくむ連文節**なので**主部**。
(5)	泣いて／いた	**述部**	「泣いて」＋「いた」で一つの述語のはたらきをする。**述語をふくむ連文節**なので**述部**。
(6)	かなり／大きな	**修飾部**	「かなり大きな」が全体で「荷物を」を修飾している。**修飾語をふくむ連文節**なので**修飾部**。
(7)	花と／木を	**ウ**	「花と」「木を」は**対等**に並び、入れかえても意味が変わらない＝**並立の関係**。
(8)	読んで／みる	**エ**	「みる」は本来の「見る」の意味を失い、前の「読んで」に意味をそえているだけ＝**補助の関係**。「～て（で）＋いる・ある・みる・おく・くる・しまう」が目印。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【文の種類と組み立てを見分けるコツ】

① まず**主語・述語の組がいくつあるか**を数える。一組なら**単文**。

② 二組以上あるとき、それが**対等に並ぶ**なら**重文**、**一方がもう一方の一部（修飾語など）になっている**なら**複文**。

③「部」がつく語（主部・述部・修飾部）は、**二つ以上の文節がまとまって**一つのはたらきをしているときに使う。一文節だけなら「主語・述語・修飾語」。

④ **並立**と**補助**はどちらも二文節がくっつく関係だが、**並立＝入れかえられる／補助＝入れかえられない**で区別できる。

四　「「不便」の価値を見つめ直す」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**イ**	筆者はまず、「**便利＝よい／不便＝悪い**」という、だれもうたがわない見方を取り上げ、そこに問いを投げかけている。これが話題提示の役割。 ア・ウは筆者の立場と逆、エは本文で問題にされていない。
(2) 5 点	**（例）手間がかかる不便なものにこそある良さのこと。（22字）**	「**不便（手間がかかること）**」（３点）＋「**そこから得られる良さ・利益**」（２点）の二点で採点。 「不便なこと」だけ、「良いこと」だけなら部分点。「**不便をなくすこと**」「**便利さの良さ**」と書いたものは０点（意味が逆）。二十～三十字から外れたら－１点。
(3) 4 点	**ア**	具体例はいずれも、手間がかかるからこそ**発見や出会いの機会、体力・知力・技術力の維持・向上**など、便利なものでは得にくい良さが生まれることを示している。イ・ウ・エは本文に書かれていない内容。
(4) 3 点	**ア**	筆者は便利さを否定していない。便利さの良さは「**手間や時間が省ける**」「**だれでも同じ結果を得やすい**」という点。イ・ウ・エはいずれも便利さの良さとして述べられていないので誤り。
(5) 5 点	**（例）発見や出会いの機会や、体力・知力・技術力を高める機会。（27字）**	「**発見や出会いの機会**」（２点）＋「**体力・知力・技術力を維持・向上させる機会**」（２点）＋「文末が「**～機会。**」など体言止めで整っている」（１点）で採点。 どちらか一方だけでも、本文の不便益にそった内容なら部分点とする。「**時間**を失う」「**お金**を失う」は０点（便利さの**良さ**のほうを書いてしまった誤り）。二十五～三十五字から外れたら－１点。
(6) 4 点	**イ**	**最も多い読み違いを問う設問**。筆者は「不便ならなんでもよい」とは言っていない。不便さの中にある**良さを見つけ、それを生かして設計する**という立場。アは「不便でありさえすれば」が誤り、ウ・エは本文にない決めつけ。

四　「「不便」の価値を見つめ直す」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 3 点	**ア**	前を認めたうえで別の見方を示すのは**逆接**。イ「だから」は順接、ウ「たとえば」は例示、エ「つまり」は言いかえ。
(8) 3 点	**ア**	具体例の段落は、筆者の考えを**裏づけ、読者に実感させる**はたらきをもつ。説明的文章では「具体例＝主張のささえ」と考えてよい。
(9) 4 点	**イ**	「便利＝よいという当たり前を問い直す（**話題提示**）」→「不便益の**具体例**」→「不便の価値にも目を向けよという**主張**」という順。説明的文章の基本型。
(10) 6 点	**（例）便利さだけを追い求めず、不便の中にある工夫や発見の楽しさにも目を向けるべきだということ。（44字）**	「**便利さだけを求めるのではない**」（２点）＋「**不便の中にある良さ（発見・出会い・体力や技術の向上など）**」（３点）＋「**目を向けるべきだ／見つめ直すべきだという主張の形**」（１点）で採点。 具体例をなぞっただけのもの（例「手回しの道具は楽しい。」）は２点まで。 「便利さは不要だ」「不便にもどるべきだ」と書いたものは０点。四十〜五十字から外れたら－１点。
(11) 6 点	**※固定解なし。下の採点基準による。**	**【満点（６点）の条件】** ①身のまわりの**具体的な例を一つ**挙げている（２点）／②その例の**どこが不便か**が書かれている（２点）／③その不便から**どのような良さが生まれるか**が書かれている（２点）。 **【部分点】** 例だけで不便さの説明がない→２点。不便さは書けたが「良さ」が書けていない→４点。 **【０点】** 単に便利なものを挙げただけ／不便であることの**不満**だけを書いたもの。 **【字数】** 六十〜八十字から外れたら－１点。 （**参考例**）手で書く漢字練習は時間がかかるが、何度も書くうちに形を覚え、自分の字がうまくなっていくのを感じられるので、不便益といえる。（61字）
(12) 3 点	**イ・ウ・オ**	イ…筆者は不便益を研究する工学者（○）。ウ…「不便益」は筆者がつくった言葉（○）。オ…具体例で不便益を説明している（○）。ア…昔の生活にもどれという主張ではないので×。エ…便利な道具を使う人々を批判する文章ではないので×。**イ・ウ・オの三つそろって３点**（完答）。**一つでも欠けたり、ア・エをふくめたら０点。**

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. 「**不便益**」は**筆者がつくった言葉**。「不便＋益（よいこと)」と分けて考えれば意味がつかめる。
2. 筆者は**便利さを否定していない**。便利さの良さを認めた**うえで**、不便の価値も見ようと言っている。
3. 最大の読み違いは「**不便ならなんでもよい**」。不便の中から**良さを生む不便**を選び取るのが筆者の仕事。
4. この文章の軸は**対比**。「便利＝手間が省ける・だれでも同じ結果」／「不便＝発見や出会いの機会・体力や技術の向上」を表にして整理しておく。
5. 具体例は**それ自体が答え**ではなく、**主張をささえる材料**。「例から何が言えるか」まで考える。
6. 構成は**話題提示→具体例→主張**。主張は多くの場合**最後の段落**にある。
7. 記述は**文末の形**で減点されやすい。問いが「どのようなことか」なら「**〜こと。**」、「なぜか」なら「**〜ため。／〜から。**」でそろえる。
8. 字数指定のある記述は、**句読点も一字**。書き終えたら必ず数え直し、指定範囲の中におさめる。